

2015年度サブ・クラスター研究経過報告

# 「両大戦間期における諸問題の制度・歴史分析 —現代世界へのインプリケーション」

研究代表者:木谷名都子

(名古屋市立大学大学院経済学研究科准教授)

共同研究者:井上泰夫

(名古屋市立大学大学院経済学研究科教授)

共同研究者:藤田菜々子

(名古屋市立大学大学院経済学研究科准教授)

共同研究者:山口明日香

(名古屋市立大学大学院経済学研究科講師)

# 1. 研究目的と個別テーマ

## <研究目的>

両大戦間期に国や地域を超えて議論され始めた資源や環境、貿易摩擦、人口、福祉などの諸問題を、制度・歴史的アプローチにより考察し、現代世界へのインプリケーションを得ること。

## <個別研究テーマ>

(木谷)「1930年代～40年代におけるイギリス帝国経済体制の変容とアメリカのプレゼンス」

(井上)「1930年代における地域的な市場統合が国際経済および国内経済の行く末に与えた影響」

(藤田)「1930年代スウェーデンにおける経済・福祉政策」

(山口)「両大戦間期の世界における木材貿易」

## 2. 研究経過状況

### <1> 1930年代における貿易体制

#### ① 1930年代における経済ブロック化の進展をどうとらえるか

- ◆ 1930年代イギリス帝国経済体制をめぐる研究動向の整理

- ◆ 当該期におけるアメリカのプレゼンスの考察

#### ② 両大戦間期の世界における木材貿易

- ◆ 日本の木材貿易を世界の中に位置付けて考察

- ◆ アジアを中心に世界の木材貿易をマクロ的に考察

→ 世界の木材市場は分断的かつ重層的であった可能性

## <2> 経済・福祉政策の起点としての1930年代

◆ 経済政策に関して、ケインズ理論よりも前にケインズの政策（財政政策）がとられた

◆ 福祉政策において、ミュルダール夫妻の『人口問題の危機』（1934年）が大きな契機に。普遍主義的福祉政策の理念がスウェーデンに定着し、「スウェーデン・モデル」の起点となった

→ これら政策の思想的基礎を探究

- ① 1930年代人口論議と福祉政策との関連
- ② 多様な福祉レジームを特徴づける起点
- ③ ミュルダールやケインズなどの福祉政策の意義

### 3. 今後の研究課題

- ① 両大戦間期における通商・原料問題の検討—国際連盟と帝国におけるイギリスの議論と対策の考察
- ② 木材貿易の考察を通じた両大戦間期の環境・資源問題の検討
- ③ 1920年代から1930年代への、規制緩和から規制強化への政策転換が、現代資本主義にとってどのような帰結を生み出したのかについての考察
- ④ 1930年代スウェーデンにおける福祉政策の検討—人口論、少子化対策論の考察

# 2015年度研究成果・活動実績

## <研究成果>

木谷名都子(2016)「1930年代の国際経済秩序をめぐる研究動向 ―イギリス帝国特惠関税体制(オタワ体制)の意義をめぐる―」『オイコノミカ』、第52巻第3号、81-88頁。

ミュルダール著・藤田菜々子訳(2015)『ミュルダール ―福祉・発展・制度』ミネルヴァ書房。

藤田菜々子(2016)「スウェーデン・モデルの起点―1930年代の経済・福祉思想」岡澤憲英・斉藤弥生編著『スウェーデン・モデル―グローバルイゼーション・揺らぎ・挑戦』彩流社。

Yamaguchi, Asuka (2015) “The Government Railways and the Procurement of Railway Sleepers in Prewar Japan”, in S. Sugiyama (ed.) *Economic History of Energy and Environment*, Springer, pp.31-68.

山口明日香(2015)『森林資源の環境経済史 ―近代日本の産業化と木材―』、慶應義塾大学出版会。

## <活動実績>

書評会「山口明日香『森林資源の環境経済史 ―近代日本の産業化と木材―』を読む」を、2016年2月8日16時より、名古屋市立大学滝子キャンパス3号館2階大学院第4教室において開催。